

第3回夏季手当交渉報告

並みならぬ努力をしてきた私たちに 報いようとする会社(怒)!!!!

中央本部は5月30日の10時から「2014年度夏季手当第3回交渉」を行いました。
今回は、「要求の根拠」について説明しました。

【組 合】

- ①度重なる災害や輸送障害の中で、安全と安定した輸送を確保し、収入拡大に向けて努力し、四半世紀ぶりの好決算を達成した。支払い能力は十分にある。
- ②一方で、昨年度は過去最低額の期末手当・15年連続ペアゼロとなった。この間の苦勞を報いるため、今手当で還元すること。
- ③可処分所得の減少と消費増税や物価上昇により、生活環境は厳しさを増すばかりであり、会社は組合員の生活基盤を安定させる責任がある。
- ④中期計画がスタートした。実務を担うのは組合員であり、モチベーションを高める事は会社の責務である。
- ⑤発足以降JR貨物を支えてきたのはJR貨物労組である。誠意ある姿勢を示すべきである。

【会 社】

- ①組合が主張している事は認識している。
- ②平成25年度決算は、良い数字を出したが、鉄道事業部門は43億円の赤字であり、道半ばである。手当に関しては、全体を見極めて判断していく。
- ③夏季手当を考える上で、決算も判断材料の一つであり、それを含めて全体で判断する。

青年部から、「昨年度の期末手当の実績によって、会社は大幅に黒字が出たが、私たちは涙を吞まされ生活は赤字だ!」「昨年、社長は超低額回答を行って、現場の青年部員は怒っているのか?と聞いてきた。だったら、満額回答を出せ!」「家族に、満足に服も買ってあげられない青年部員もいる。本当に生活が出来ない所まで来ていることを会社は認識しろ!」「34億円の黒字が出たなら十分に支払える。職場の青年部員は、自分たちが頑張っ
て出した黒字を還元しろ!と声を上げている。絶対ここで還元を行わないと、この状況
を乗り越えられない!」「しっかり私たちに応えろ!」と、会社に私たちの現実と意見や
声をぶつけました。会社は、またまた春闘同様に「生活できないは、どこの基準?」や、「
また、前回と同様な議論になる」などと、私たちの実態や声に応えようとはしませんでした!!

みなさん!こんな会社の態度は許せますか!?